

市長と住民の「こんだん会」 報告レポート

「臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう」

1 開催趣旨

ここ数年、新型コロナの感染拡大により、3密回避のため、今まで行われてきた地域コミュニティ活動が中止または縮小を余儀なくされました。集まる場やできることが制限され、人々とのコミュニケーションがとりにくい日々が続いてきました。

しかし、感染警戒レベルも下がり、感染拡大防止のための制限も緩和されている中、「コロナを日常に」していく取り組みが求められています。

安原地区でも、「文化祭」や「新年顔合わせ会」など感染防止の工夫を重ね、少しずつ事業・活動を再開しています。

そこで、地域コミュニティを再構築するため、その中心となっている住民の皆さんからその取り組みを伺い、臥雲市長をお招きし、意見交換できる場として「市長と住民の『こんだん会』」を開催しました。

2 開催日時

令和5年2月7日(火) 午後6時30分～8時

3 開催場所

安原地区福祉ひろば

4 開催テーマ

おらがまちの自慢話

「ポストコロナ」～地域コミュニティの再構築～

5 参加団体

- (1) 安原地区町会連合会
- (2) 安原地区ボランティア活動団体(天白琥珀会、シフォンの会)
- (3) 地域学生(信州大学 ロッピキ)

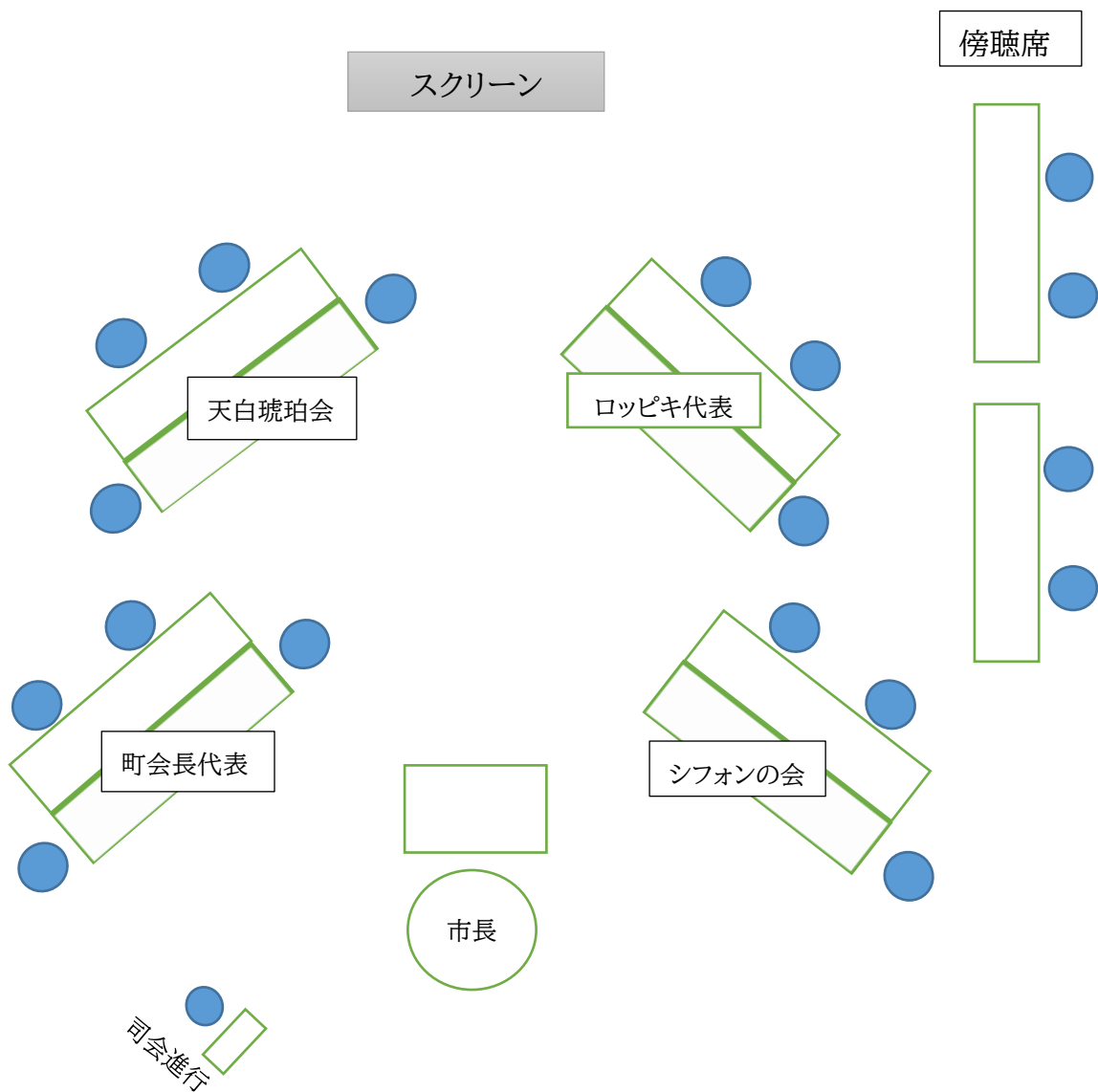
6 参加者数

- (1) 参加団体(3団体) 15人
- (2) 傍聴者 2人

7 会場

飲食を伴うため、机を4つに仕切るアクリル板を設置

天白琥珀会による手焙煎コーヒーと手作りのお菓子がシフォンの会により提供されました。



「シフォンの会」はステキなユニフォームで登場
「カフェあさばの」の始まりです

臥雲市長あいさつ

この懇談会は昨年5月からスタートし、1年半かけて35地区をまわることになっている。

今回の安原地区は19回目。

松本市は、合併により地図上でも面積も大きな市であり、35地区の特徴や課題もそれぞれ異なる。

それぞれの地区をまわって皆さんのお話を自分の頭に入れたり、腹に落としたりして政策や事業にどう生かしていくのかということを考えている。

臥雲市長さんのこと

松本の駅前生まれ育ったこと、大学を出てからHNKの記者として28年間勤めた後市長になったこと、今は第2地区に住んでいること、奥様は横浜で学校の教員をしているので自分はマンションで一人暮らしていることなど、ご自身のことについてお話していただきました。

今年は還暦。自分自身、節目の年でもあるということです。

市長に就任した頃にコロナの感染が広がり始め、市長の仕事とコロナ対応はずっと平行でやってきましたが、今後は季節性インフルエンザと同等の扱いになるという政府の方針なので、皆さんの日々の活動も日常に戻り、あるいは日常を超えてさらに一歩も二歩も先に進めていきたいと思うとのことです。



育成会の役員をしていますが、子どもたちが、広報の市長の顔がいつも怒った顔をしていると言うので、是非笑った顔を載せていただきたい。

(笑)

市長

子どもの頃から愛想が無いと言われるタイプ。市長になってから新型コロナの感染拡大もあり、苦勞している市民の皆さんのことを考えれば「笑えないな」という思いもあったわけです。

今後は「少しは真面目な顔をしろ」と言われるようにしたいと思います。(笑 笑)

三町会合併

現在安原地区は11町会で構成されている。

令和4年に合併調整を行い、令和5年度から新町会(天白三町会)として活動する予定。

合併するのは、「天白町町会」「中ノ丁町会」「東ノ丁町会」の三町会

1 合併の目的

増える人材、減る負担

2 経過

令和元年 町会有志から合併の提案書が出され、検討を始める。

2年 3町会の総会の資料を交換し、会員数、町会費、行事などをそれぞれの町会でカードに書き出して一表にまとめる。改めて、町会により独自性があることを確認した。

3年 町会長交代。次の町会長に引き継ぎ

三町会の前町会長・現在の町会長で令和5年の合併を目指し検討を始める。

4年 4月 町会ごとに総会を開催。それぞれの町会で合併することについて承認

合併協議委員会設置

9月 新町会設立総会開催

安原地区町会連合会で承認される

11月 松本市町会連合会で承認される

どうして合併しようと思ったのですか？

この町会では町会に入っていない学生や若い単身世帯がアパートに住んでいる人が多くて、結果、町会の高齢化率は数字上では低くなっていますが、実際には町会のメンバーは高齢者が多くて…。それで役員がまわせなくなってきていました。

自分の町会では、次の役員の候補者が一回り若くなってしまうので、次の人を待っていたら10年も続けていかなければいけないですが、3町会一緒になると年齢の谷間が上手くつながるようになります。

合併すると、160世帯に増えますが、今までは役員が3町会で併せて40人必要だったのが25名でよくなります。役員の数が減らせます。



合併がうまくいったのはどうしてだと思えますか？

もともと三町会合同で「天白公民館」で行事をやっていました。
それで親しくなっていました。

3町会の思惑が一致したことです。タイミングよくまとめようということになりました。
コロナもあり、なかなか集まれなかったですがなんとかできました。

住民の皆さん全員が賛成したわけではないと思いますが、苦労話がありますか？

特に問題になったのは、町会の名前です。
3つの町会名をつなげると長くなってしまい、元々の由緒ある町会名がなくなってしまうことへの抵抗がありました。

反対もありましたが、最後は民主主義で多数決で決めました。

市長から

松本市内でも、単位町会のサイズが小さいところから大きいところまで極端な差があります。子どもが0人の町会もあります。文字通り合併しないと町会の役割を果たせない状況になっているところもあります。

地区事業の再開・運営(ボランティア活動団体)

シフォンの会

平成18年から活動

「カフェあさばの」の運営や地区のイベントでカレーライスを作っている。

令和4年度 松本市社会福祉大会で地域福祉功労賞表彰受賞

天白琥珀会

令和元年結成

コーヒーをきっかけに人と人を結びつける活動をしている。

公民館のコーヒー講座や交流会などを実施

天白琥珀会の活動の
良いところは？

町会公民館のサロンでコーヒーの手焙煎をすると若い主婦の人も来てくれるんです。

50代の人とか来てくれて、仲良くなって役員を引き受けてもらったこともあります。

最初は町会だけだったけど、ひろばや地区で活動するようになりました。

今後は地区外でもやっていきたいと思っています。

おいしいコーヒーを飲んで、おいしいケーキを食べると皆さん喜んでくれる。うれしい。

シフォンの会が始まったきっかけは？

最初は、一人暮らしのお年寄りをバスや車に乗せて「お出かけ」をしていましたが、参加していただける人数に限りがあり、車の運転が大変ということでお茶カフェを始めることにしました。

独自で実施していましたが、予算のこともあり、福祉ひろばと共催で実施するようになりました。

どんな事を心がけていますか？

地区の皆さんが仲良くなって、おいしいお茶を飲んで帰ってもらうことです。

来た人の名前を憶えて声掛けをしたり、一人で来た人も仲間に入れるよう声掛けするようにしています。

この地区の男性はシャイでふれ健にもなかなか参加していただけないでいました。

そこで、男ばかりのお茶会を企画したところ、その参加者がお茶カフェにも参加してくれるようになりました。

今ではデジカメクラブも一緒に活動するようになっています。

絆のあるまちづくりをしたいと思っています。

長く続けていきたいです。

後継者づくりも
課題ですね。

市長から

男性がシャイなのはどこも同じ。

コーヒーが巾広い世代がつながる良いアイテムになる。

シフォンの会で名前を憶えて声掛けすることは人との距離が縮められる。良いことだと思う。

信州大学学生 ロッピキ

信州大学に通う学生グループ「まつもと空き家プロジェクト」で有志が集まってできた。
平成 28 年開設 5 人のメンバーで活動開始
クリーニング店だった空き家を借りて活動している。



「ロップキ」の名前の由来は？

発足のメンバーは 5 人で、人との交流の中で来てくれた人がロップキ目という考え方です。

会に入った理由は？

空き家を利用して地域の人が集まることに興味がありました。



地域の人と一緒に活動することが面白そうだと思います。
空き家での活動が珍しいと思いました。

手作り感のある場所に魅力を感じました。

地域の方にとってロップキはどんな存在ですか？



たまたまうちの町会にちょうどいい空き家があり、ロップキができました。
学生さんとの交流の場があるのは貴重だと思います。(萩町公民館長)

個人的には、町内の人ももっと積極的にかかわって
くれるといいなと思っています。(萩町公民館長)

長く活動できるといいと思います。
(萩町公民館長)

コロナ前に活動していた学生さんはバーベキュー大会、ナイトシアター、ビアホール、敬老の日など交流会をしていました。

近年は、コロナで交流できていませんでしたが、先日は敬老の日に合わせて高齢者の訪問をしてもらいました。

でも、イベントをしてもらうためにいてもらっているわけではありません。

町内に学生が好きな活動をする場所があることが重用だと思っています。

若い人がまちの中を歩いているだけで充分。学生だけで活動していても構わないと思っています。

(萩町町会長)

市長から

若い人がまちの中を歩いているということほど地域にとって良いことはないということは、いつも感じていること。

信州大学のキャンパスが安原にあることも大きいですが、ロップキの存在をうらやましいと思う人も多いと思う。

費用のことはどうなっているのか？

学生が主体でやってきたので、町会ではなにもしていません。(萩町公民館長)

月1万円で使わせてもらっています。

まちづくり協議会から補助を出してもらっています。

市長から

空き家を学生や若い世代の方たちに空き家を使ってもらおうとありがたいと思う町会はあると思います。他の地域の皆さんにロップキをヒントに広げられたらと思った。同じような活動をしようとした時にどういことがカベになると思いますか？どうしたら積極的に展開ができる条件はどんな事だと思いますか？

当事者(地域・所有者・学生)全員がその活動に同意することが必要だと思います。

以前、ロップキ2号店を駅前で考えたことがあったが、最終的には所有者の同意が得られなかったことがありました。学生に活動してほしいという地域の皆さんの声があると難しいです。

市長から

学生に来てほしい地元の人や拠点のほしい学生の情報を行政が持っている。行政がコーディネーター役をになうことが望ましい。皆さんが望むのであれば、これに特化したことを地域づくりセンターあるいは住民自治局の部署の職員がその一角を担えればと思う。

うまくいっているのは、ロップキが1つだから希少価値がある。
たくさんあってもうまくいかないのではないかな？
ロップキの皆さんにお聞きしたいが、たくさんある空き家を利用して何かをしていく戦略があるか？(町会長)



他にもおもしろいことをやっている学生はいっぱいいる。
まちの中で学生とコラボしたり、そこに地域の人が来てく
れればいいと思います。(学生)

学生の活動が広がっていく場にロップキが使われれば
良いと思います。(学生)

無理をしてタイトな関係を築くことはないと思っています。フワツとした関係でいいんです。
萩町でも特別しっかりした関係ではありません。
ゆるい関係性がいいと思っています、無理して近づくとダメになると思います。(萩町町会長)

市長から

世代間で価値観が違い、同じような考え方をするわけではない人たちが一つの地域で居心地よくすごして
いくためには、町会長さんが言うようなことが大切だと思う。
昨年1年間で人口が社会増した11都府県の中に長野県も入っている。長野県の市町村の中では松本市
が一番転入が多かった。
松本市がちょうど良い距離感で何を大切にしていくのか。極端な束縛でなく自由度が高いことが必要。
学生が自由にまちの中を歩き、そのことで住民にうおいや活気がでてくることにつながる。
こんな関係性が市全体に広がるといいのではないかと感じた。

市長から最後に

印象深い話をたくさん聞かせていただいた。
町会の合併は簡単なことではないが、それを成し遂げられて進んでいく活力を感じさせていただいた。
いろんな地域や町会の問題があるが、安原で成し遂げられたことを少しでもヒントになるような話を伝え
ていきたい。
フワツとした関係。若い人たちがまちの中にいることの良さはみんなが感じている。その仕組みを行政とし
て後押ししていくことに力をいれていきたい。